

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

(1) 指定に至る経過

玉丘古墳は、明治16年(1883年)に石棺が盗掘され、石室内部から刀剣、勾玉、管玉、車輪石、鍬形石、鍬が出土し持ち出されたと伝えられている。しかし出土遺物があまりにも少ないことから、これ以前に盗掘を受けていた可能性が高いようである。

昭和6年(1931年)に京都大学梅原末治氏によって現地調査が実施され、昭和18年(1943年)には国指定史跡に指定された。

玉丘古墳をはじめとする玉丘古墳群は、市街化区域の東端部にあり、田園風景を残す地域で、古墳とその周辺を取巻く環境は比較的良好であったが、昭和49年(1974年)度の県道高岡・北条線建設以降、住宅街「加西ハイツ」の造成、市民病院、市民会館、図書館などの建設が続き、市街地は新たに東方向へと拡大していった。

昭和49年(1974年)度の県道高岡・北条線建設の際には路線予定地内にマンジュウ古墳と北山古墳が所在することから、昭和47年(1972年)度には北山古墳、マンジュウ古墳の発掘調査が実施されたが、これら2基の古墳は県道の法線変更によって現状保存された。

昭和53年には、陪塚1・2号墳、マンジュウ古墳、笹塚古墳、逆古墳、北山古墳、クワンス塚古墳、実盛塚古墳、壇塔山古墳の9基の古墳が追加指定され、これらを一括して国指定史跡「玉丘古墳群」と指定名称が変更された。

玉丘古墳群の史跡地買収計画は、昭和51年度に玉丘古墳の買収交渉が始まり、引き続き市街地に近い古墳から順次行うことになっていたが、昭和53年にマンジュウ古墳墳丘部、昭和54年に笹塚古墳の墳丘部を買収し公有化が図られたにすぎなかった。

ところで、玉丘古墳の墳丘及び周濠は、史跡として保護されると同時に、水田灌漑用水としても利用されていた。しかし、この周濠堰堤の老朽化が進行し、昭和50年頃から玉丘古墳の周濠からの漏水問題が浮上し、昭和52年度には自治振興事業として特にいたみのひどい樋管部を中心に約50mのブロック積による補修と周濠内における泥土取り除き工事が実施された。

この事業に先立ち、市教委は昭和51年度に墳丘裾部から周溝内堆積土及び堤部にかけての確認調査(第1次調査)を実施した。

その後、昭和55年度からは、修復箇所以外の堰堤崩壊が急速に進み、早急に史跡の保存処置を講じるため、市教委は昭和59年度に堤部復元の基礎資料を得ることを目的とした確認調査(第2次調査)を実施した。調査の結果、前方部側堤位置は、堰堤位置から水田側に入り込むことが判明した。調査結果を受けて、昭和63年に当該地の史跡追加指定及び一部指定解除され、平成元年度に周堤用地の買収を実施した。堰堤保存整備については、前方部側の埋没堤部及び周濠発掘調査(第3次調査)を実施後、史跡保存整備国庫補助事業として昭和61年度から開始し、平成元年度に完了した。

田園風景を残す県道北側において、昭和61年度から平成6年度にかけ公共施設の整備と宅地の利用増進を図ることを目的に東播磨都市計画事業横尾古坂土地区画整理事業が実施された。事業実施に先立って昭和61年度に事業地内の確認調査を実施し、昭和62年度にシヤマ古墳、平成2年度に史跡マンジュウ古墳周辺の黒福古墳群、史跡逆古墳の周濠及び小山古墳の発掘調査が実施された。

区画整理事業において、笹塚古墳、マンジュウ古墳などを含む周辺の水田などが都市計画公園用地として再編され、これらの用地は、平成10年度に区画整理法により加西市横尾・古坂土地

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

区画整理組合から加西市に換地処分され公有化が図られた。

公園整備については、文化財側が主体となり整備を図ることになったが、周辺では区画整理事業完了後、住宅建設など急速な都市化の波が押し寄せており、かつての田園風景も大きく変貌してきている。この変化に伴い笹塚古墳、マンジュウ古墳の保存活用ならびに住環境と調和及び管理が急務の課題として浮上してきた。

土地区画整理事業により市街地が東側へと拡大した結果、玉丘古墳群を背景として活用しながら、歴史豊かな文化の香る公園を整備する計画が浮上した。平成5年度に玉丘古墳等整備基本計画、平成6年には文化公園（玉丘史跡公園）基本計画が策定され、平成7年度から平成12年度にかけて玉丘史跡公園整備事業が実施された。

公園整備事業実施に伴い、平成6年度に玉丘古墳及び陪塚1・2号墳の史跡外の隣接地、平成7年度にクワンス塚古墳の墳丘部から外堤部、平成10年度に壇塔山古墳の墳丘部の確認調査が実施され、平成6年に玉丘古墳の一部・クワンス塚古墳、平成7年に玉丘古墳の一部・陪塚1号墳・2号墳・逆古墳・壇塔山古墳、平成9年実盛塚古墳・北山古墳の一部、平成11・12年に北山古墳の一部の公有化が図られ、貴重な歴史遺産である玉丘古墳群の一体的な保全が図られるようになった。玉丘古墳群の管理は、加西市が管理団体となり現在に至っている。

表 4-1 玉丘古墳群の調査・指定・整備履歴

年度	指定関係	史跡公有化	整備	発掘調査	開発事業
S12				亀山古墳第1次調査	
S18	玉丘古墳指定				
S43	亀山古墳（加西市指定文化財）				
S47				北山古墳・マンジュウ古墳（県委託事業）	県道新設工事
S50					加西ハイツ造成～S56
S50 頃					玉丘古墳周濠漏水問題
S51				玉丘古墳第1次調査	
S52			玉丘古墳堰堤一部補修（自治振興事業）	玉丘古墳周濠部	
S53	玉丘古墳群へ名称変更、追加指定				
S53		マンジュウ古墳墳丘部			
S54		笹塚古墳墳丘部			
S55					玉丘古墳周濠漏水問題
S59				玉丘古墳周濠部 陪塚1号墳隣地 陪塚2号墳隣地	
S60			玉丘古墳堰堤復元整備	玉丘古墳第2次調査	県道北側一帯土地区画整備事業開始
S61			玉丘古墳堰堤復元整備		
S62					横尾古坂土地区画整理事業着手～H11

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

年度	指定関係	史跡公有化	整備	発掘調査	開発事業
S63	玉丘古墳堰堤部追加指定、一部解除				
H1		玉丘古墳堰堤部の一部	玉丘古墳堰堤復元整備	玉丘古墳第3次調査～H2	
H2				マンジュウ古墳隣接地	
H3			文化公園・住宅団地基本構想策定	笹塚古墳隣接地	
H5			玉丘古墳等整備基本計画策定		
H6		玉丘古墳・クワンス塚古墳	文化公園(玉丘史跡公園)基本計画策定	玉丘古墳隣接地 陪塚1号墳隣地 陪塚2号墳隣地	
H7		玉丘古墳・陪塚1号墳・陪塚2号墳・逆古墳・壇塔山古墳	歴史街道計画整備プラン策定	クワンス塚古墳第1次調査	
H8		玉丘古墳・逆古墳・実盛塚古墳			
H9	北山古墳追加指定	実盛塚古墳・北山古墳		玉丘古墳墳丘測量・地中探査	
H10		北山古墳・笹塚古墳・マンジュウ古墳(区画整理法による換地処分)		笹塚古墳周濠部、壇塔山古墳	
H11		北山古墳		陪塚1号墳墳丘測量(市史編纂事業) 陪塚2号墳墳丘測量(市史編纂事業) 実盛塚古墳墳丘測量(市史編纂事業)	
H12		北山古墳	玉丘史跡公園オープン		
H13			文化庁調査官視察	笹塚古墳周濠部・墳丘部	
H14		会計検査において史跡の保存と活用について指摘あり		マンジュウ古墳周濠部	いこいの村散策道整備
H15				マンジュウ古墳周濠部・墳丘部、亀山古墳墳丘部	いこいの村散策道整備
H16				亀山古墳埋葬主体部(2次調査)	
H17				逆古墳隣接地(1次調査)	
H18			クワンス塚古墳調査復旧	陪塚1号墳第1次調査 クワンス塚古墳第2次調査 逆古墳	
H19			クワンス塚古墳調査復旧	陪塚1号墳第2次調査 クワンス塚古墳第3次調査 逆古墳第2次調査	
H22			笹塚古墳応急的復旧		
H27				玉丘古墳石棺調査	

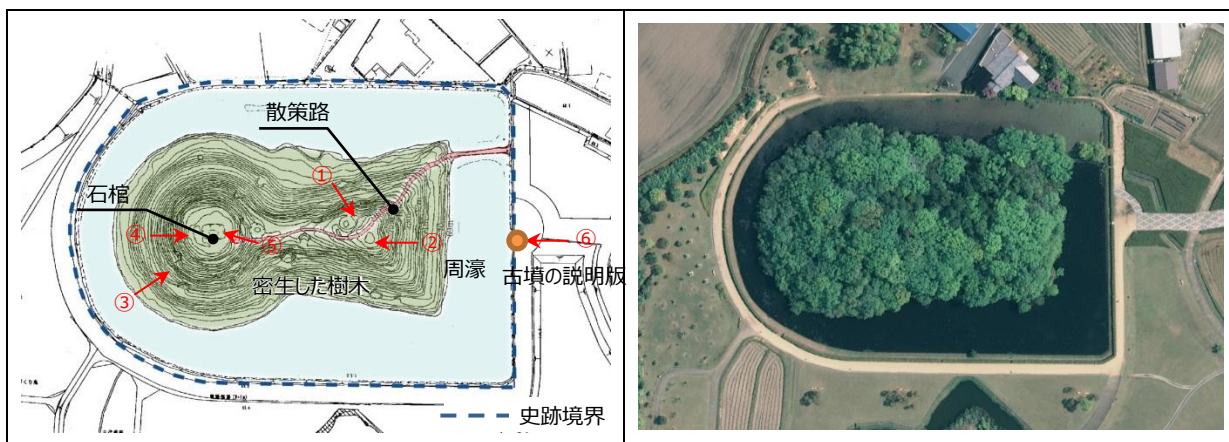
4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

(2) 各古墳の現状と課題

1) 玉丘古墳

築造	古墳時代中期（4世紀末）		
指定地番	加西市玉丘町字水塚 86-2、90-2、91、91-1、91-2、91-3、91-4、91-5、92、93-2		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	前方後円墳 (3段築成、全長 109.0m)	長持形石棺直葬	前方部 23m 後円部 14m
遺物	埴輪（円筒形・朝顔形・形象）、長持形石棺		
指定面積	11,803.26 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和7年	墳形および石棺の調査
昭和18年9月8日	国の史跡に指定
昭和51年度	第1次調査
昭和52年度	樋管部の補修と泥土取除き工事（自治振興事業）
昭和53年9月18日	玉丘古墳群として史跡指定（追加指定及び名称変更）
昭和60年1月10日 ～昭和60年3月30日	第2次調査
昭和63年1月20日	追加指定及び一部指定解除
昭和61年度 ～平成元年度	堤部保存整備（史跡保存整備国庫補助事業）
平成元年度	周濠用地の取得買収完了
平成元年12月8日 ～成2年1月15日	第3次調査
平成9年	墳丘測量・地中探査
平成9年3月10日	追加指定
平成12年度	玉丘史跡公園整備
平成27年3月2日 ～平成27年3月31日	石棺材依存状況調査

■現況写真



■現状樹木

前方部 10m×10m 範囲	後円部 10m×10m 範囲	古墳西側	石棺窪み内部
高木 56本 ネジキ、シャシャンポ、コナラ、カナメモチ、サカキ、スギ、アベマキ、ソヨゴ 中木 27本 ヒサカキ、カナメモチ、アラカシ、ソヨゴ、ネジキ 低木 マンリョウ	高木 45本 シラカシ、ネジキ、コナラ 中木 ヒサカキ、アラカシ 低木 マンリョウ、アラカシ、ヒサカキ	高木 アベマキ、シャシャンポ、ネジキ 中木 ヒサカキ、カナメモチ、ソヨゴ、アラカシ、マンリョウ 古墳東側 高木 6本/m²程度 スギ、ヒノキ	高木 7本 ヒサカキ (2本)、サクラ (枯死)、カナメモチ、コナラ、ウルシ、アベマキ 周濠 ハス

■現状

玉丘史跡公園の中核拠点のシンボルとなる古墳で、保存状態は良好である。

周濠に囲まれているため、墳丘部に入るには前方部側の散策路からのアクセスとなる。前方部側から後円部中央まで散策路が続いているが、整備はされておらず、冬場は落葉で覆われているため、滑りやすく歩きにくい。

墳丘上に杉植林等の樹木が繁茂している。樹種は場所によって種類が異なる。後円部中央に長径約6m、短径約4m、深さ約2mの大きな盗掘坑があり石棺破材が露出しているが、墳丘等の保存状態は良好である。

■課題

後円部の盗掘坑は、その規模も大きく見学者の安全性を考慮する必要がある。

現状の見学ルートのみでは、墳丘棄損の可能性が考えられる。

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

2) 陪塚 1 号墳

築造	古墳時代中期（5世紀前半）		
指定地番	加西市玉丘町字南山 617		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳（墳丘径 22.0m）	不明	4m
遺物	埴輪、須恵器		
指定面積	198.00 m ²		

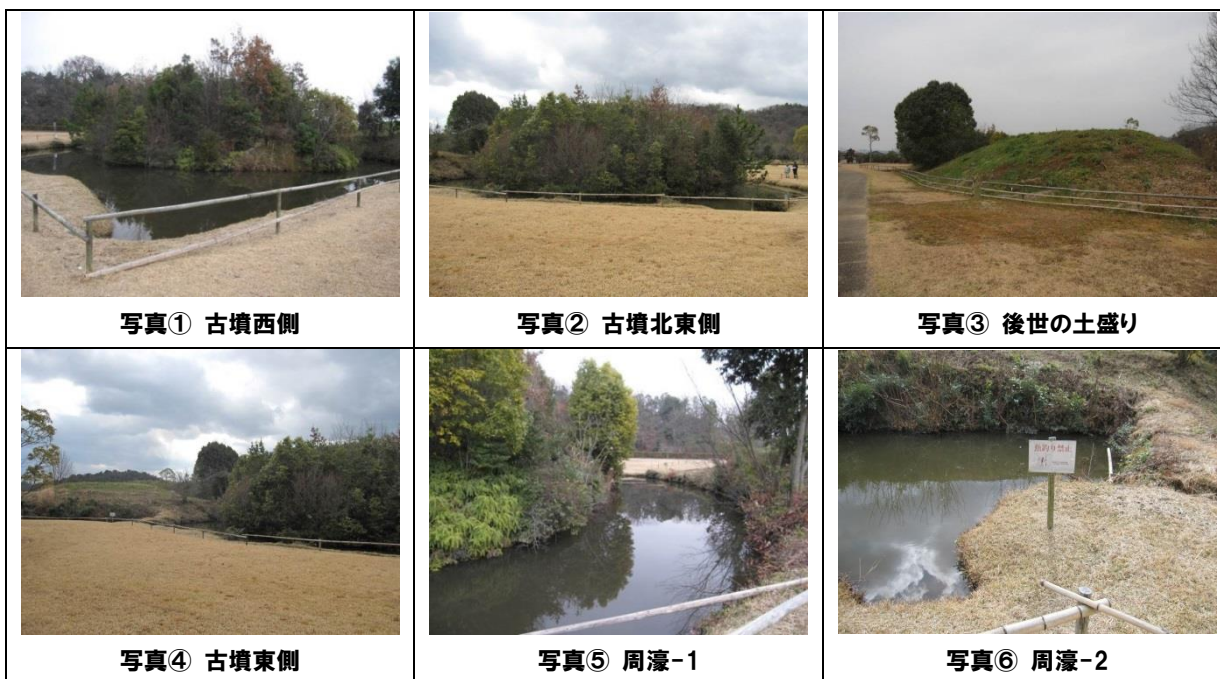
■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和 53 年度	玉丘古墳群として史跡指定
昭和 59 年度	史跡外の隣接地確認調査
平成 6 年度	史跡外の隣接地確認調査
平成 11 年度	墳丘測量および探査（市史編さん事業）
平成 12 年度	玉丘史跡公園整備
平成 17 年 6 月 28 日	墳丘部一部崩落発見
平成 17 年 7 月 6 日	史跡のき損届提出、き損復旧計画書提出
平成 18 年 2 月 1 日 ～平成 18 年 3 月 31 日	第 1 次調査（調査復旧作業）
平成 18 年 7 月 19 日	墳丘部一部崩落発見
平成 18 年 7 月 26 日	史跡のき損届提出、き損復旧計画書提出
平成 19 年 3 月 28 日 ～平成 19 年 3 月 30 日	第 2 次調査復旧作業

■ 現況写真



■ 現状樹木

樹木名
高木 コナラ、クチナシ、アラカシ、カナメモチ、ソヨゴ、ネジキ、ヒサカキ、コナラ、クロマツ、ウラジロ

■ 現状

玉丘史跡公園内に所在し、墳丘の保存状態は良好である。
 周濠底は後世に浚渫されているため、墳丘裾部の削平が顕著である。
 墳丘上に樹木が繁茂しており、古墳の形は目視では確認できない。
 周濠等に囲まれているため、墳丘部に入ることはできない。
 周濠等の周りは、高さ 60 cm 程度の竹柵で囲まれており、進入禁止となっている。
 墳丘の発掘調査は実施されておらず、主体部の内容等の詳細については不明である。

■ 課題

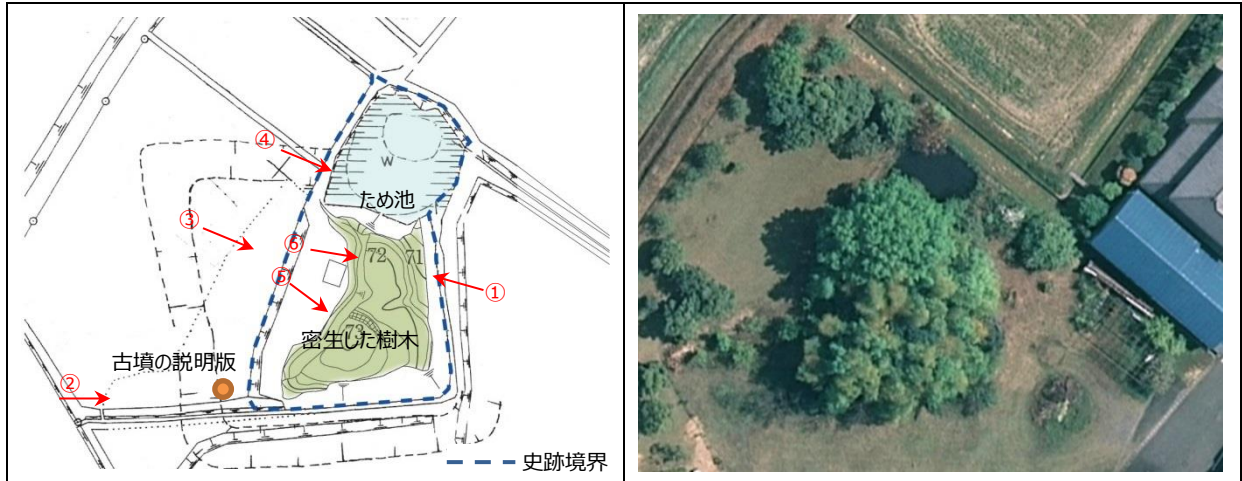
周濠底は後世に浚渫されているため、過去に墳丘が一部崩落したこともあり、現在は小康状態であるが、今後さらに墳丘・外堤が崩落する可能性がある。
 発掘調査を実施し、古墳の築造時期や主体部の内容等を明確にする必要がある。
 墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。
 公園内における景観上の問題がある。
 墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。
 史跡境界の明示ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

3) 陪塚2号墳

築造	古墳時代中期（5世紀前半）		
指定地番	加西市玉丘町字水塚 75		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	方墳（一辺 24m）	不明	4m
遺物	埴輪片（円筒埴輪）		
指定面積	59.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
昭和59年度	史跡外の隣接地確認調査
平成6年度	史跡外の隣接地確認調査
平成11年度	墳丘測量および探査（市史編さん事業）
平成12年度	玉丘史跡公園整備

■現況写真



■現状樹木

樹木名
高木 モウソウチク、サクラ、クヌギ、ヒサカキ、コナラ、エノキ

■現状

玉丘史跡公園内に所在し、墳丘の2/3が削平されているものの保存状態は良好である。

墳丘の北東に、ため池が接している。墳丘北側には芝生の広場があり、東側には民家が近接している。

墳丘上には竹が繁茂し、落葉が堆積している。周濠沿いに竹柵が設置してあるが、周濠の形状は現状では見ることができない。

墳丘等の残存状態は良好であるが、発掘調査は実施されておらず、古墳の築造時期や主体部の内容等の詳細については不明である。

■課題

発掘調査を実施し、古墳の築造時期や主体部の内容等を明確にする必要がある。

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。また、公園内における景観上の問題がある。

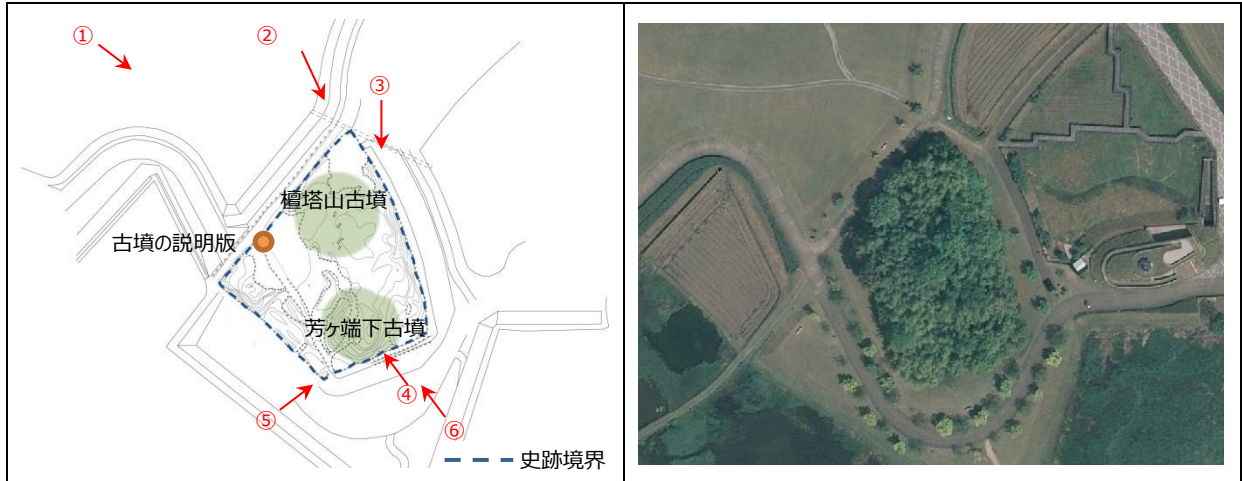
史跡境界の明示ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

4) 壇塔山古墳

築造	古墳時代中期（5世紀前半）		
指定地番	加西市玉丘町字芳ヶ端下 191-8		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳（墳丘径 17.0m）	不明	2.5m
遺物	円筒埴輪（壇塔山古墳）		
指定面積	380.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
平成10年度	市教育委員会による確認調査
平成12年度	玉丘史跡公園整備

■現況写真



■現状樹木

樹木名
マダケ @0.5m 高木 ネジキ、アママツ、アラカシ、ソヨゴ、カナメモチ

■現状

玉丘史跡公園内に所在し、墳丘の削平は顕著であるが保存状態は良好である。

墳丘上に竹など樹木が繁茂し、南側に隣接する芳ヶ端下古墳との境界を目視で確認するのは不可能である。

墳丘には竹など樹木が密生して暗く、蟻が生息するなど、人が立ち入ることはできない。

■課題

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

蟻の危険性など管理上の問題がある。

墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。また、公園内における景観上の問題がある。

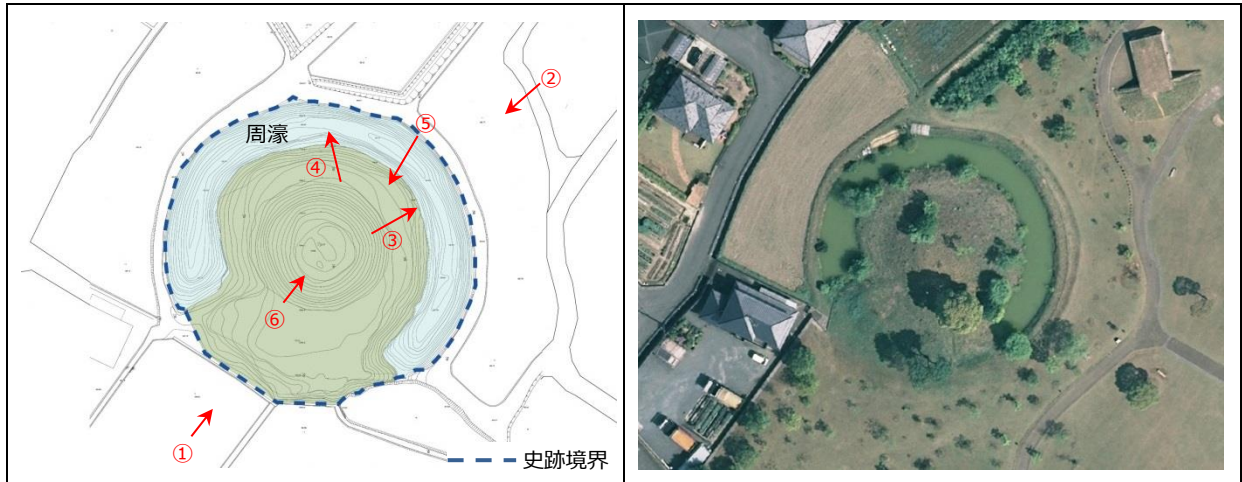
史跡境界の明示ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

5) クワンス塚古墳

築造	古墳時代中期（5世紀前半）		
指定地番	加西市玉丘町字南山 615-32		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳（2段築成、墳丘径 35.0m、墳丘高 5.0m）	竪穴式石郭	10.0m
遺物	埴輪（円筒形・朝顔形・形象）、土製品、土器、鉄器		
指定面積	1,358.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
平成7年度	第1次調査
平成12年度	玉丘史跡公園整備
平成17年6月28日	外堤部一部崩落発見
平成17年7月6日	史跡のき損届提出、き損復旧計画書提出
平成18年2月1日 ～平成18年3月31日	第2次調査（調査復旧作業）
平成18年7月19日	外堤部一部崩落発見
平成18年7月26日	史跡のき損届提出、き損復旧計画書提出
H19年3月1日 ～H19年3月8日	第3次調査（調査復旧作業）

■現況写真



■現状樹木

樹木名	本数	備考
サクラ	7	H=7m
コナラ	1	
ソヨゴ	3	株立ち
シャシャンボ	3	
カキノキ	1	

■現状

玉丘史跡公園に所在し、保存状態は良好である。

周濠底は後世に浚渫されているため、外堤部の削平が顕著である。

水田に面しているが、民家にも近接している。古墳全体の3/4程度が周濠で囲まれており、周濠周の周りは、高さ60cm程度の竹柵で囲われている。どの方向からも2段築成がくっきりと確認することはできる。

墳丘上に樹木が数本ある。

周濠の水利権は地権者にあるため、農業用に水の汲み上げが行われている。

■課題

周濠底は後世に浚渫されているため、過去に外堤部が一部崩落したこともあり、現在は小康状態であるが、今後さらに外堤部が崩落する可能性がある。

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

公園内における景観上の問題がある。

墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。

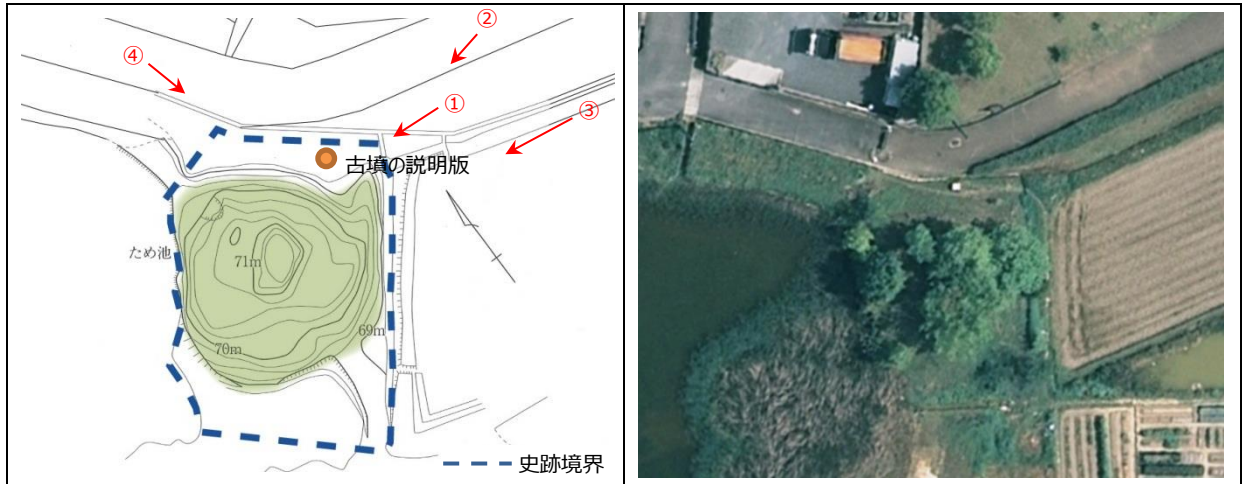
史跡境界の明示ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

6) 実盛塚古墳

築造	不明	
指定地番	加西市北条町古坂字内座 1170-2、1170-3	
遺構	墳形	埋葬施設
	円墳（墳丘径推定 20.0m）	不明
遺物	不明	
指定面積	249.00 m ²	

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
平成11年度	墳丘測量および探査（市史編さん事業）
平成12年度	玉丘史跡公園整備

■現況写真



■現状樹木

樹木名	本数	備考	樹木名	本数	備考
サクラ	6	H=4~5m	アラカシ	1	枯死
クス	2	H=4m、20m	ヒサカキ	1	
シラカシ	2	H=9m、20m	スモモ	1	

■現状

玉丘史跡公園に所在し、保存状態は良好である。

北側はため池、東・西側は民地の水田と畑に囲まれている。

墳丘上に樹木が繁茂している。

墳丘等の残存状態は良好であるが、発掘調査は実施されておらず、古墳の築造時期や主体部の内容等の詳細については不明である。

■課題

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

発掘調査を実施し、古墳の築造時期や主体部の内容等を明確にする必要がある。

墳丘自体の現状は雑木林であり、遺構自体の持つ価値の顕在化はできていない。また、公園内における景観上の問題がある。

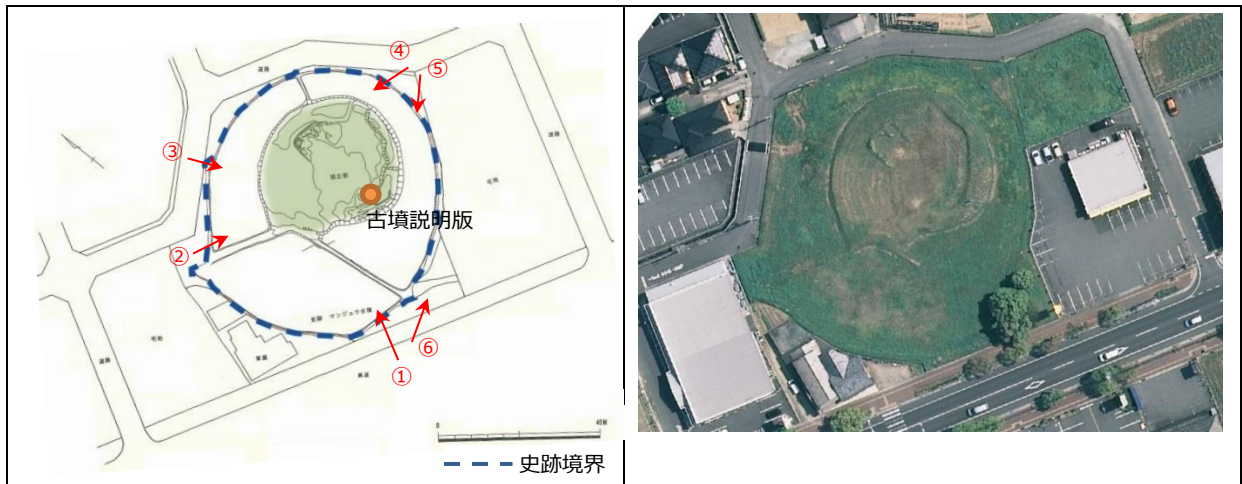
史跡境界の明示ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

7) マンジュウ古墳

築造	5世紀前葉～中葉		
指定地番	加西市北条町古坂字黒福 1039-1、1039-2、1039-3、1040-1、1041、1053-1、1053-2、1053-3、1053-4		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳(墳丘径推定 20.0m)	不明	北東部 7.3m、北西部・南東部 10.0m 前方部側 10.0～12.0m
遺物	埴輪(円筒形・朝顔形・形象)、須恵器		
指定面積	2,721.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和47年度	第1次調査
昭和53年	墳丘および周濠推定地の水田が国の史跡に指定
昭和53年9月18日	玉丘古墳群として史跡指定
昭和60年度～	県道北側の一帯の水田で土地区画整備事業が開始
平成2年度	区画整備事業に伴う発掘調査、墳丘測量調査
平成10年度	土地区画整備組合から加西市に換地処分
平成15年2月17日 ～平成15年3月20日	第2次調査
平成15年12月1日 ～平成16年1月27日	第3次調査

■現況写真



■現状樹木

樹木名	本数	備考
クスノキ	3	史跡境界線外
エゴノキ	1	史跡境界線外

■現状

住宅街の都市計画公園用地内に所在し、保存状態はあまり良好とはいえない。

古墳の南側は主要幹線の県道24号に面し、東側には飲食店の駐車場、西側には民家が近接、北側は道路を介して民家が隣接している。

墳丘を含む公園全体に雑草が繁茂し、水はけが非常に悪く、蝮が生息するなど、人が立ち入ることはできない。

公園用地の南東角にクス、エゴノキが生えている。

■課題

後世の削平が著しく遺構自体の持つ価値の顕在化が全くできていない。

都市計画公園用地であり、住宅街での公園整備が必要である。また、市街地における景観上の問題がある。

蝮の危険性など管理上の問題がある。

現況測量及び史跡境界の明示ができていない。

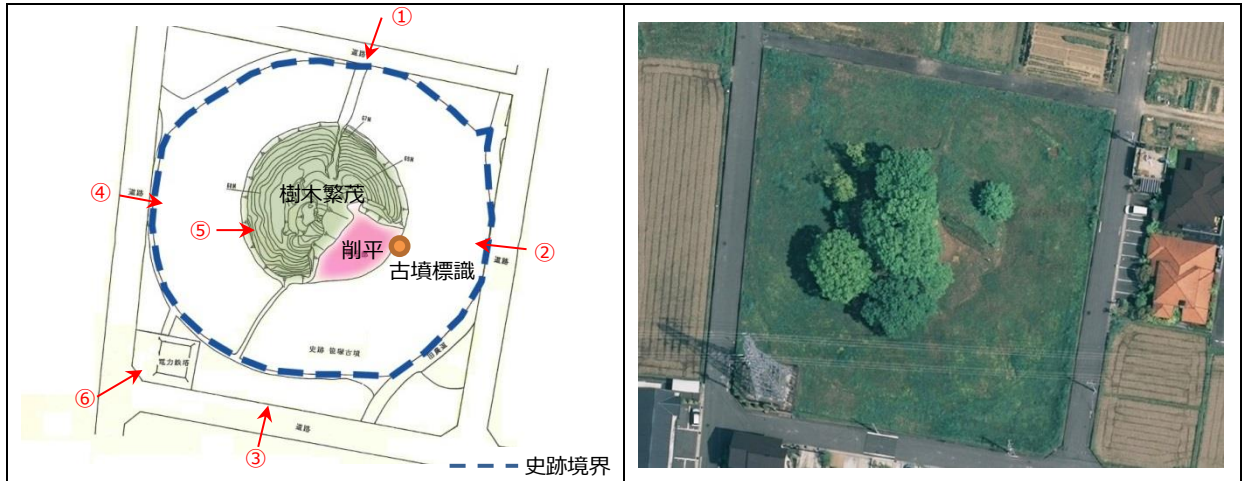
説明板が設置されていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

8) 笹塚古墳

築造	5世紀前葉～中葉		
指定地番	加西市北条町古坂字東長本 690-1、691、692		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	帆立貝式古墳 (2段築成 全長 43.5m)	竪穴式石郭	南部・西部 15.0m 北部 11.5m 前方部側 10.0m
遺物	埴輪(円筒形・朝顔形・形象)、須恵器、鉄器、土器		
指定面積	2,984.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
昭和60年度～	笹塚古墳を含む一帯の水田で土地区画整備事業が開始
平成3年度	区画整備事業に伴う発掘調査、墳丘測量調査
平成10年度	土地区画整備組合から加西市に換地処分
平成10年11月 ～平成11年3月	第2次調査
平成13年9月 ～平成13年11月	第3次調査
平成22年4月21日	史跡のき損届出書提出
平成22年4月30日 ～平成22年6月14日 平成23年1月19日 ～平成23年2月9日	応急的復旧作業

■現況写真



■現状樹木

樹木名	本数	備考
コナラ	6	Φ30 cm内外
ネズミモチ	2	

■現状

住宅街の都市計画公園用地内に所在し、保存状態はあまり良好とはいえない。四方を道路に囲まれており、道路を介して民家が隣接している。墳丘南西側には鉄塔が立っている。

墳丘の1/4が削平され、墳丘裾部も削平が著しく浸食が進んでいる。

主体部の石室は残存しているものの、両小口は削平によって消失し、その断面は露出している。

墳丘上に樹木が繁茂し、落葉が堆積している。墳丘削平部分の法面には、巨木の根により一部崩壊しかけており、応急的に土嚢とネットで補強している。巨木が倒壊する危険性が非常に高い。

墳丘を含む公園全体に雑草が繁茂し、水はけが非常に悪く、蝮が生息するなど、人が立ち入ることはできない。

■課題

墳丘肩部の樹木による崩落の危険性が非常に高い。墳丘裾部についても、浸食の拡大する可能性が非常に高い。

後世の削平が著しく、遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。また、墳丘削平部の崩落が拡張する危険性が非常に高い。

都市計画公園用地であり、住宅街での公園整備が必要である。また、市街地における景観上の問題がある。

蝮の危険性など管理上の問題がある。

現況測量及び史跡境界の明示ができていない。

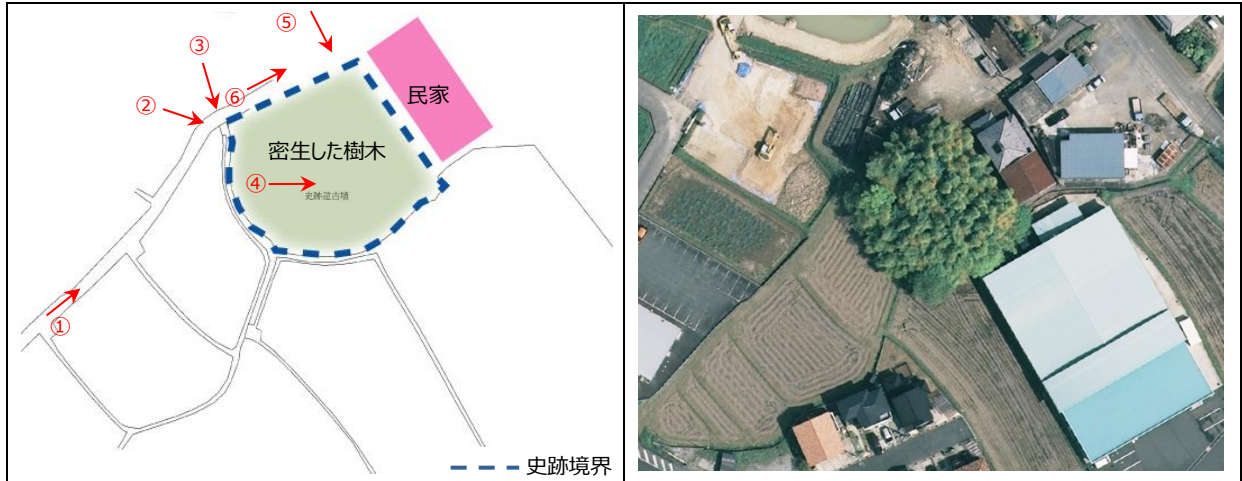
説明板が設置されていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

9) 逆古墳

築造	不明		
指定地番	加西市玉丘町字逆 8-1、8-7		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳（墳丘径推定 30.0m）	不明	不明
遺物	埴輪（円筒形）、須恵器		
指定面積	780.00 ㎡		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定
平成17年度	遺跡範囲確認調査（第1次調査）
平成18年度	市教育委員会による確認調査
平成19年1月22日 ～平成19年1月26日	民間開発に伴う確認調査（第2次調査）

■現況写真



■現状樹木

樹木名	本数	備考
モウソウチク		墳丘一帯
サクラ	1	
エノキ	1	
カナメモチ	1	
ヒサカキ	1	

■現状

都市計画区域内に所在し、保存状態は良好である。

墳丘の削平は著しく、墳丘上に竹や雑木などの樹木が繁茂し、隣接する民家等の建造物に影響を及ぼしそうである。

散策路があるが、整備はされていない。

墳丘の北東側に民家（空家）が隣接し、三方を水田と畑に囲まれている。

墳丘の残存状態は良好であるが、測量調査や発掘調査は実施されておらず、古墳の築造時期や主体部の内容等の詳細については不明である。

■課題

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

測量調査及び発掘調査を実施し、古墳の築造時期や主体部の内容等を明確にする必要がある。

後世の削平が著しく遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。また、市街地における景観上の問題がある。

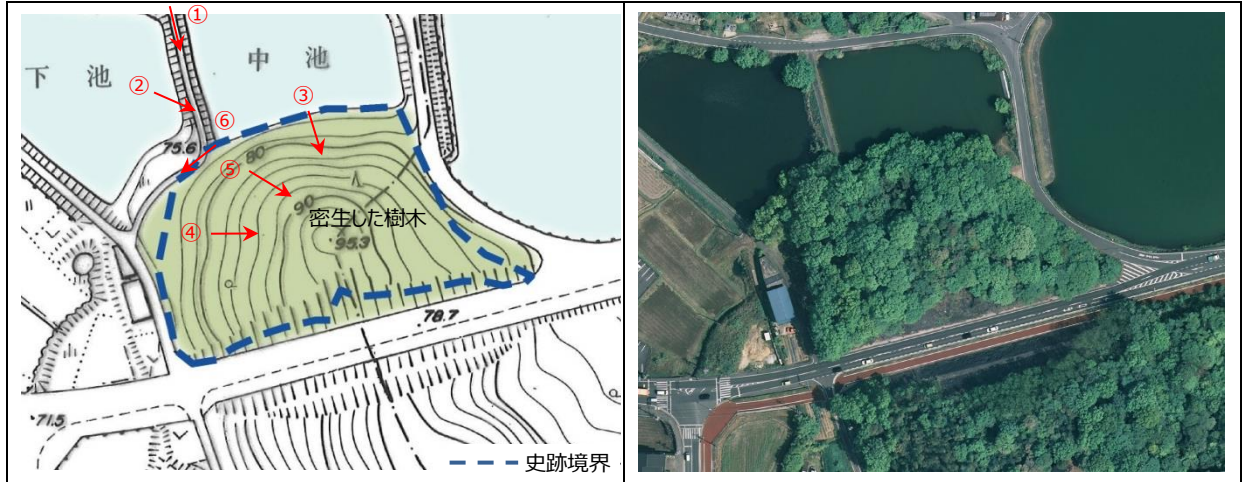
史跡境界の明示ができておらず、説明板も設置されていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

10) 北山古墳

築造	古墳時代中期後半		
指定地番	加西市玉丘町字北山 621-60、621-61、621-63 加西市玉野町字西ノ谷 1125-6		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳（墳丘径推定 25.0m）	竪穴式石室	なし
遺物	埴輪（円筒形・朝顔形・形象）、須恵器、鉄器、玉類		
指定面積	4,744.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和47年度	第1次調査
昭和53年度	玉丘古墳群として史跡指定

■現況写真



■現状樹木

	樹木名	本数
法 面 部	高木 @1.5m コナラ、ソヨゴ、アラカシ、アベマキ、ネジキ、サクラ、ネズミモチ、イヌツゲ、シラカシ	
頂 上 部	クスノキ	6
	アラカシ	2
	シラカシ	1
	ケヤキ	1
	カナメモチ	1

■現状

山頂部に所在し保存状態は良好である。

墳丘は全面調査後埋め戻しを実施しているが、現在は、墳丘上に樹木が繁茂し、冬場は落ち葉で覆われている。墳丘は落ち葉の堆積で歩きにくく、踏み込むと陥没する箇所もある。

南側が県道 24 号に面し、東側と北側はため池に面しているが、フェンス等の防護柵はない。また、道路を介して西側には斎場がある。

■課題

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

景観上の問題がある。

山頂にあるため史跡として認知度が低く、樹木が繁茂しているため遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。

現況測量及び史跡境界の明示ができていない。

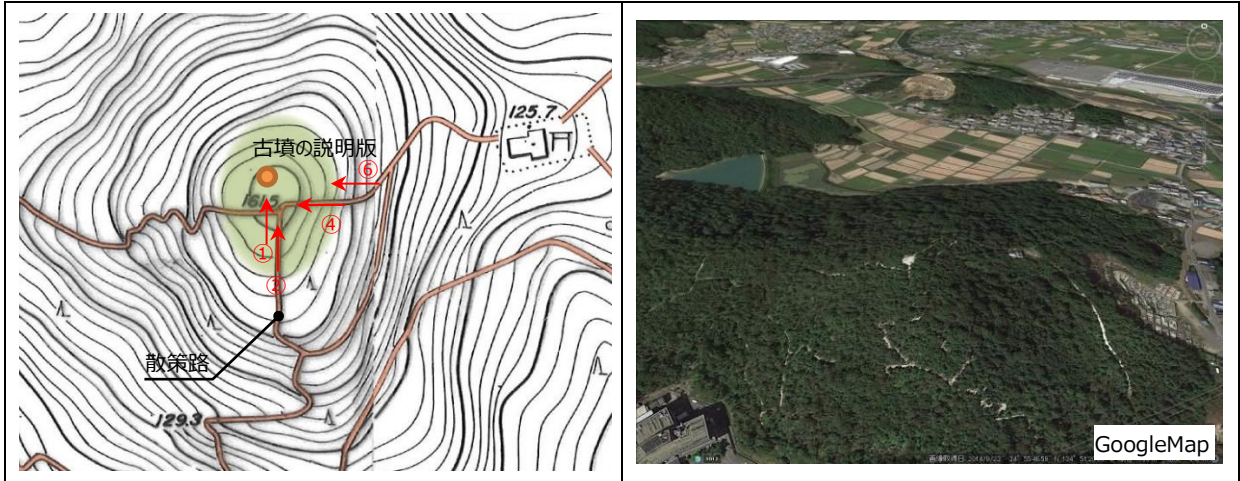
説明板が設置されていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

11) 亀山古墳

築造	5世紀後葉		
指定地番	加西市笹倉町亀山 822-1		
遺構	墳形	埋葬施設	周濠
	円墳 (楕円型 長径 48m短径 44m)	石蓋土坑	なし
遺物	埴輪(円筒形・朝顔形・形象)、須恵器、武器、武具、農耕具類、鏡		
指定面積	889.00 m ²		

■概略図・全景写真



■調査及び指定経緯

年月	調査経過内容
昭和12年	第1次調査(地元有志による発掘、京都帝国大学梅原末治らにより記録)
昭和28年	鴨国魂神社建立
昭和43年	加西市指定文化財に指定
平成16年	第2次調査(市教育委員会による発掘調査)



■現状樹木

樹木名
(山頂部) ヤマトツツジ、クヌギ、コナラ、アラカシ、カナメモチ、ミツバツツジ

■現状

山頂部に所在し、保存状態は良好である。

墳丘は確認調査後埋め戻しを実施しているが、6本の石柱で主体部範囲を明示し、説明板も設置している。

墳頂部は岩盤が露出し、墳丘上に樹木が繁茂している。

亀山の頂上に位置し、3つの遊歩道ルートがある。

古墳の東側には「鴨國魂神社」、西側には「ランドマーク展望台」があり、いずれも遊歩道でつながっている。

頂上までのルートには階段が設けられているが、かなり急勾配で歩きにくい。

■課題

墳丘上の樹木は根茎の成長による墳丘への影響が考えられる。

景観上の問題がある。

山頂にあるため古墳として認知度が低く、樹木が繁茂しているため遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。

土地の公有化及び国史跡への追加指定ができていない。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

(3) 管理運営の現状と課題

1) 史跡案内サイン

■現状

道路標識として、玉丘史跡公園を示すものはあるが、そのほかの個々の古墳について設置されているものはない。埋蔵文化財整理室を案内する標識もない。玉丘古墳群全体を示す標識は設置されている。

玉丘史跡公園内には、古墳説明版と統一された石造の方向案内サインが設置されている。

亀山古墳の登り口には、古墳についてのサインや標識はないが、「遊歩道登り口」のサインが設置されている。これは「いこいの村はりま」内に設置されているサインの形式である。

都市公園であるまんじゅう塚公園と笹塚公園については、遠くから見て分かる標識は設置されておらず、笹塚古墳については「史跡笹塚古墳」「郷土の文化財を大切に」と記された看板が墳丘裾に設置されている。

電車を利用して見学に来る人に対しては、北条駅に市全体を示している観光マップが設置されているが、史跡に特化した観光マップではないため、玉丘史跡公園以外の古墳については位置が表示されていない。



■課題

標識が設置されている範囲が玉丘史跡公園付近のみであり、遠方から車で来た人に対して、史跡まで誘導することができない。現在残っているマンジュウ古墳、笹塚古墳、亀山古墳、北山古墳については、個々に示している標識がないため、史跡の位置を誘導することができていない。また、小山古墳など消滅した史跡の位置を示すものもないため、玉丘古墳群全体を網羅しているとは言えない。

また、玉丘古墳群共通のサインがなく、統一感がない。各史跡をつなぐ道路の分岐点など設置場所を検討し、玉丘古墳群全体を見学してもらいやすくするため、ネットワーク化を図る必要がある。

観光マップについてはハード面の整備に限らず、市ホームページに史跡案内地図を掲載したり、史跡案内のリーフレットを作成するなど、広報計画と絡めたソフト面の整備が必要である。

2) 史跡説明版

■現状

史跡説明版について4つのパターンが存在する。

パターン1：史跡として取得したことを示すもの。

(マンジュウ古墳、陪塚1号墳)

パターン2：墳形や出土遺物など、古墳の概要について示したもの。玉丘史跡公園内にあるすべての古墳に設置されている。

(玉丘古墳、陪塚1号墳、陪塚2号墳、壇塔山古墳、芳ヶ端下古墳、クワンス塚古墳、実盛塚古墳、)

パターン3：掲載している内容は古墳によって異なるが、文章が看板に記されているもの。

(玉丘古墳、陪塚1号墳、亀山古墳)

パターン4：説明版なし。

(逆古墳、笹塚古墳、北山古墳、消滅してしまった古墳)



■課題

玉丘古墳群共通の説明版様式がなく、統一感がない。また、多種類の説明版が設置されている古墳もあれば、全く説明版が無い古墳など、古墳によって温度差がある。また、設置された年月がバラバラで、情報が更新されていない。

玉丘古墳群として統一化を図るため、説明版に掲載する情報を精査し、統一したデザインとする必要がある。また、随時情報を更新できるような工夫も必要である。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

3) 管理運営体制

■現状

玉丘史跡公園については、指定管理者制度を活用しており、民間業者が公園内の除草やイベント（勾玉づくり、イモほり体験など）の運営、ホームページの管理などを担っている。

笹塚公園、まんじゅう塚公園については、都市公園として加西市が管理運営を行っており、年4回程度シルバー人材センターに除草を依頼している。

亀山古墳、北山古墳については加西市が管理を担っているが、放置している状態である。

猪による獣被害がある史跡もあるが、対策が取られていない。

資料等については埋蔵文化財整理室で加西市が管理し、玉丘古墳群出土の遺物を中心に、埴輪や土器などの展示を行っている。

■課題

加西市が管理している史跡については放置しているものもあり、市の力だけでは管理できていないため、NPOやボランティアなど民間の力の活用を含めた管理計画を立てる必要がある。

運営については、史跡の整備を行った上で、史跡公園の目的や活動内容を明確にし、その活動を実践できる運営体制を整える必要がある。

4) 広報活動

■現状

玉丘古墳群について、以下の方法で広報活動を行っている。

紙媒体：広報誌、玉丘古墳群・風土記関連ガイドブック(播磨国風土記 1300年記念事業)チラシ、調査報告書

WEB：市の公式ウェブサイト、フェイスブック、ツイッター

イベント：モノづくり体験、加西市播磨国風土記 1300年祭



図 4-1 古代の加西と播磨国風土記



図 4-2 玉丘史跡公園（玉丘古墳群）パンフレット



図 4-3 加西市 HP



図 4-4 加西市観光まちづくり協会 FB

■課題

現在行っている広報活動の成果を来訪者アンケート等で検証し、より効果的な広報活動を展開できるよう内容を精査する。また、遠方からの来訪者だけでなく、地元住民の史跡への関心度を高めるため、住民参加型の広報活動を展開する。

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

(4) 現状と課題一覧

玉丘古墳群にある各古墳、サイン等について、現状と課題を以下に整理する。

表 4-2 現状と課題

	名 称	周辺環境	現 状	説明版 の有無	調査の有無等	整備 有無
市街地ゾーン	笹塚古墳	市街地	墳 丘：墳丘1/4と裾部削平。樹木繁茂。削平部法 面一部崩壊、応急的に補強。 主体部：石室残存。両小口消失、断面露出。 周 濠：目視で確認不可。 その他：立入不可（全体に雑草繁茂、蝮の生息、水は けが悪さ等）	無	測 量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部 周濠	無
	マンジュウ 古墳	市街地	墳 丘：墳丘上段削平、浸食進む。 周 濠：目視で確認不可。 その他：立入不可（全体に雑草繁茂、蝮の生息、水は けが悪さ等）	無	測 量：墳丘 発掘調査：墳丘 周濠	無
	逆古墳	市街地	墳 丘：削平顕著、樹木繁茂。 周 濠：なし。 その他：散策路未整備。民家隣接。	無	測 量：無 発掘調査：無	無
公園ゾーン	玉丘古墳	公園 民家隣接	墳 丘：樹木繁茂。 主体部：後円部中央の盗掘坑。石棺破材露出。 周 濠：蓮の自生。土橋はぬかるむことが多い。 その他：墳丘上の散策路は未整備。	有	測 量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部 周濠 外堤部	有 外堤部
	クワンス塚 古墳	公園 民家隣接	墳 丘：2段築成確認可。樹木が数本ある。 周 濠：外堤部削平顕著。 その他：周濠水利権は地権者にあり、農業用水に利 用。	有	測 量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部 周濠	無

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

課題	整備と活用の方向性	整備の基本方針	整備の緊急度
<p>周辺環境：都市計画公園用地で、公園整備が必要。 市街地の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：墳丘削平部等崩落・浸食拡張の危険性非常に高い。 遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。蟻の危険性など管理上の問題あり。</p> <p>説明版：形式統一した説明板の設置が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市街地内の公園化と歴史学習利用の促進 古墳の適正保存 墳形等、視覚的に古墳と理解できる遺構修復を図る。 サイン施設の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 棄損した墳丘の修復 棄損・衰亡を未然に防止するための修復。（樹木の伐採など） 古墳本来の規模や形状が認識できる墳丘及び周濠の修復（葺石等の復元はしない） 見学通路・見学用の階段及び説明板設置 史跡境界杭の設置 	高短期
<p>周辺環境：都市計画公園用地で、公園整備が必要。市街地の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。蟻の危険性など管理上の問題あり。</p> <p>説明版：形式統一した説明板の設置が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> (サインデザイン・シンボル等、古墳群全体の統一性を配慮。) 	<ul style="list-style-type: none"> 棄損した墳丘の修復 古墳本来の規模や形状が認識できる墳丘及び周濠の修復（葺石等の復元はしない） 見学通路及び説明板設置 史跡境界杭の設置 	高短期
<p>周辺環境：市街地の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：形式統一した説明板の設置が必要。</p> <p>調査：測量調査・発掘調査が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市街地内の公園化と歴史学習利用の促進 古墳の適正保存 墳形等、視覚的に古墳と理解できる遺構修復を図る。 サイン施設の充実（同上） 古墳の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> 墳丘部の樹木伐採・間伐 説明板設置 史跡境界杭の設置 整備のための測量調査及び発掘調査 	中中期
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：見学ルートによる墳丘棄損の可能性あり。盗掘坑と見学者の安全性を考慮が必要。墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：他史跡と形式統一した説明版設置の検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史学習利用の促進 視覚的にも古墳群について理解できる野外博物館的空間とする。 視覚的に古墳を理解できる遺構整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 墳丘部の樹木伐採 主体部盗掘個所の修復 長持形石棺の復元展示 後円部墳頂部方形壇・埴輪樹立・玉石（川原石）敷き均し状況の復元模型展示やサイン展示 見学通路の整備及び説明板設置 	高短期
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：周濠底浚渫による外堤部崩落の可能性あり。墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：他史跡と形式統一した説明版設置の検討が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> サイン施設の充実（同上） 公園外古墳や遺跡、文化財施設（埋蔵文化財整理室、県考古博物館分館）等のネットワーク化のためのアクセスサイン施設の充実 古墳の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> 復元整備（部分復元；墳丘、造出、葺石、埴輪列、周濠） 主体部展示（平面表示のみ） 見学通路整備及び説明板設置 	低長期

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

	名称	周辺環境	現状	説明版の有無	調査の有無等	整備有無
公園ゾーン	陪塚1号墳	公園	墳丘：樹木繁茂。墳形の目視確認不可。 周濠：外堤部削平顕著。周濠等に囲まれ、墳丘部立入不可。	有	測量：墳丘 発掘調査：墳丘 (崩落部)	無
	陪塚2号墳	公園 民家隣接	墳丘：2/3削平。竹繁茂。 周濠：目視で確認不可。 その他：民家・民地が近接。	有	測量：墳丘 発掘調査：周濠	無
	実盛塚古墳	公園	墳丘：墳丘上に樹木が繁茂している。 周濠：周濠形状は見る事ができない。 その他：民地が隣接。	有	測量：墳丘 発掘調査：無	無
	壇塔山古墳	公園	墳丘：削平顕著。樹木繁茂。芳ヶ端下古墳との境界目視不可。 周濠：目視で確認不可。 その他：立入不可(蝮が生息するなど)	有	測量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部 周濠	無
山頂ゾーン	北山古墳	山頂	墳丘：樹木繁茂。 周濠：目視確認不可。 その他：フェンス等防護柵なし。	無	測量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部 周濠	無
	亀山古墳	山頂	墳丘：岩盤露出。樹木繁茂。 主体部：石柱で主体部範囲を明示。 周濠：なし その他：3つの遊歩道ルートが交差。	有	測量：墳丘 発掘調査：墳丘 主体部	無

4. 史跡玉丘古墳群の現状と課題

課題	整備と活用の方向性	整備の基本方針	整備の緊急度
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：墳丘・外堤部崩落の可能性あり。墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：他史跡と形式統一した説明版設置の検討が必要。</p> <p>調査：内容把握のための発掘調査が必要である。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習利用の促進 ・視覚的にも古墳群について理解できる野外博物館的空間とする。 		中 中期
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。</p> <p>説明版：形式統一した説明版設置の検討が必要。</p> <p>調査：発掘調査が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に古墳を理解できる遺構整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘部の樹木伐採もしくは間伐 ・説明板設置 ・整備のための測量調査及び発掘調査 	中 中期
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：形式統一した説明版設置の検討が必要。</p> <p>調査：発掘調査が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン施設の充実（サインデザイン・シンボル等、古墳群全体の統一性を配慮。） ・公園外古墳や遺跡、文化財施設（埋蔵文化財整理室、県考古博物館分館）等のネットワーク化のためのアクセスサイン施設の充実 		中 中期
<p>周辺環境：公園内の景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。蟻の危険性など管理上の問題あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：他史跡と形式統一した説明版設置の検討が必要。</p> <p>調査：内容把握のための発掘調査が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘部の樹木伐採・間伐 ・説明板設置 	低 長期
<p>周辺環境：景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：認知度が低い。墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：形式統一した説明版の設置が必要。</p> <p>調査：現況測量が必要。</p> <p>史跡境界：史跡境界明示が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン施設の充実（同上） ・ハイキング道のアクセスポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘部の樹木間伐 	低 長期
<p>周辺環境：景観性向上が必要。</p> <p>史跡現状：認知度が低い。墳丘上樹木の根茎成長による墳丘への影響あり。遺構自体の持つ価値の顕在化ができていない。</p> <p>説明版：形式を統一した説明版の設置が必要。</p> <p>その他：土地の公有化及び国史跡への追加指定必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン施設の充実（同上） ・ハイキング道のアクセスポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明板設置・史跡等境界杭の設置 	低 長期

